

Work support PLUS

ワークサポートプラス
従業員満足を高め、組織を活性化するために
必要なサービスを 必要な分だけ



- 組織・職場の課題
- ☑ダイバーシティ推進
 - ☑ハラスメント防止
 - ☑コンプライアンス
 - ☑人材育成
 - ☑各種両立支援

- 働く人の課題
- ☑子育て・介護との両立
 - ☑人間関係
 - ☑働き方・キャリア
 - ☑メンタルヘルス

Work support PLUS

社内研修
社外相談窓口

女性活躍推進プロジェクト支援
SDGs推進のプロジェクト支援等

- 組織活性
人財活性
働きがい

ダイバーシティ経営

大阪男女いきいき財団は、1993年の設立以来、男女共同参画に精通する専門家として、学校や企業、病院といった組織の風土改善やダイバーシティ推進活動を支援してきました。

ワークサポートプラスは、従業員の皆さまが健康で安心して働ける環境を整備することで、従業員満足(ES)を高め、離職防止や生産性向上につながる包括的なサービスです。

下記のサービスをベースに、それぞれの企業のご要望に応じたプランをオーダーメイドで提供します。料金はプラン内容によって異なります。まずはお気軽にお問合せください。

》》》 オーダーメイド社内研修

ご希望のテーマや研修対象などに応じてオーダーメイドの研修プログラム企画のご提案から講師手配、研修当日までトータルコーディネート。組織が抱える課題解決にむけたテーマをご提案します。

》》》 社外相談窓口

「部署の人間関係」といった職場の悩みから「育児・介護と仕事の両立」「キャリア開発・モチベーション」などの家庭や働き方の不安や悩みまで、専門相談員がサポートします。従業員の皆さまが安心して相談できる環境を整えます。

プラチナえるぼし認証を取得しました



えるぼし認定は、一般事業主行動計画の策定・届出を行った事業主のうち、女性の活躍推進に関する取組の実施状況が優良である等の一定の要件を満たした場合に認定されます(令和6年10月末現在 3102社)。プラチナえるぼし認定は、計画の目標達成や女性の活躍推進に関する取組の実施状況が特に優良である等の一定の要件を満たした場合に認定されます(令和6年10月末現在 68社)。

当財団は、令和3年度のえるぼし認定に加え、令和6年11月6日付でプラチナえるぼしの認定を受けました。大阪府内では3社目となります。引き続き従業員一人ひとりが仕事と家庭の両面において充実感をもち、いきいきと活躍できる働きやすい職場環境の整備をめざすとともに、関西・大阪における女性活躍の推進に貢献してまいります。



大阪男女いきいき財団 NEWS

ニュース

vol.48
2024.11



地域防災女性ファシリテーター養成講座東北被災地視察
(2024年5月、宮城県かわまちてらす閣上にて)



55人の女性防災リーダーとともに

当財団では、2023、2024年度で「地域防災女性ファシリテーター養成講座」に取り組み、55人の女性防災リーダーを輩出しました。この事業は、地域防災の現場で活躍できる女性の育成を目的としています。内容は、ジェンダー平等・多様性の視点を軸に、防災の知識やファシリテーション、東日本大震災の被災地を訪れる2泊3日の研修を行いました。そして、修了後の活動継続を見据え、個々に防災に関するアクションプランの作成と修了者同士が学び合い、助け合えるネットワークづくりを行いました。

元々リーダー的存在だった修了者は、リーダーシップの発揮の仕方が多様であることを学び、緩やかに周囲をまきこみながら変革していく方法を意識するようになったといいます。また、ある人は、たくさんの仲間と修了後も一緒に活動するなかで、自己肯定力が上がったことを実感していました。84%の修了者がリーダーシップや意欲の向上があったと回答しています。

当財団有志が行った能登半島被災地支援(4月、7月、9月)でも、修了者ともに炊き出しや救援物資の配布、ワークショップをしながら被災者の話を傾聴する活動に取り組みました。一緒に支援に行けないけれど、被災地への思いを募金というかたちで当財団の支援活動を応援してくれる方もおられ、私たちにとっても励みになりました。

この55人の活動が進むことにより、それぞれのコミュニティにジェンダー視点での防災の取り組みが根付いていきます。これからも、修了者を励まし、支えながら、大阪・関西の災害対応力を高める取り組みを進めていきます。



▲輪島市の避難所となった小学校でワークショップをしながら、避難者の話を傾聴する様子
(2024年7月撮影)

左奥：虫よけスプレーづくり
右：火を使わないお灸、折紙
手前：ハンドマッサージ

What's 大阪男女いきいき財団 - Osaka Gender-Equal Community Foundation -

ダイバーシティ(多様性)の時代。私たちがめざすのは、地域の皆さん、企業、学校、行政機関などと連携し、誰もがいきいき暮らせる社会を創ることです。大阪市立男女共同参画センター(クレオ大阪)5館をはじめとする公共施設の管理・運営や、悩み相談、研修・啓発事業などを通じて、すてきな未来づくりのお手伝いをしています。

第2回 いいね！ #ジェンダー平等 フォトメッセージコンテスト

大阪男女いきいき財団では、ジェンダー平等実現に向けたフォトメッセージコンテストを開催しました。応募総数は第1回の103作品を超える122作品。「いいね！」と言いたくなる、メッセージ性のある写真とハッシュタグやエピソードコメントを通じて、市民の方々が多彩なアイデアや価値観に触れる機会をめざしました。

SNSの「いいね」ボタンなどを通じて一般投票を行い、上位20作品の中から、選考委員会が「メッセージ性の高さ」や「多様な子育て・防災の姿の提示」といった軸をもとに選考し、下記の9作品を入賞作品に決定しました。



表彰式にて

選考委員

- 大森カメラ店 店主 大森 律子さん
- 大阪大谷大学文学部日本語日本文学科 教授 木下 みゆきさん
- 大阪ガスネットワーク株式会社 都市魅力研究室 山納 洋さん
- 大阪男女いきいき財団 理事長 京極 務
- 大阪男女いきいき財団 常務理事 松浦 功
- 大阪男女いきいき財団 理事兼事務局次長 沢田 薫

ジェンダー平等というと「堅苦しい」「難しそう」と感じる方もいるかもしれませんが、言い換えれば、多様性を尊重し、ひとくりにしないこと。皆さんの写真を見てわかるように、職場や家庭、地域のさまざまな場面に考えるヒントはあります。これらの作品を見た方の心にも響き、ポジティブなアクションにも、きっとつながるでしょう。

この事業には、趣旨にご賛同いただいた35の企業・市民団体のご協力をいただきました。本当にありがとうございました。

協賛企業・団体

- 公益財団法人 大阪市中小企業勤労者福祉サービスセンター、大阪地下街株式会社、セレッソ大阪ヤンマーレディース、とよす株式会社、ハードロックカフェユニバーサルシティウォーク大阪店



あったか子育て賞 #「男の子らしく」なくていいよ



性別に囚われることなく、リボンやフリフリのついた可愛い洋服や、恐竜柄のカッコイイ洋服等、色んな柄の洋服を着させています。自分自身で選べるようになったら、どんな柄を選ぶのが楽しみます。

no.33 大阪府 くらじろうさん

アレルギーがあっても何も気にかけずに完食できる、こういう場が広がっていくといいですね。

(松浦委員)

誰だって好きな服を好きなように、着ていいのです！
(大森委員)

あったか子育て賞 #ぎゅうぎゅう食堂



ぎゅうぎゅう倶楽部では、みんなのやりたい！をぎゅうぎゅうに詰めて地域で子育てをモットーにこども食堂を運営しています。みんなで楽しく料理をして食べる会で、ぎゅうぎゅうに座って真剣に料理をする様子です。

no.20 愛知県 ぎゅうぎゅうさん

孤育てではなく、スタッフや周囲の助けを借りながら、すなわち受援力を発揮して子育てしているよというメッセージを感じました。
(沢田委員)

あったか子育て賞 #ごちそうさまでした♪



8大アレルギー不使用の子ども食堂 Aru Nai Cafeでの一コマ。卵アレルギーの2歳児が完食して「ごちそうさま」してくれました。ママも喜んでくれました♪

no.40 大阪府 月ノヒカリさん

食べるだけではなく、作ることも楽しみたいという子どもたちの様子が伝わってくる作品です。

(木下委員)

いいね！ #私は育自！



私のおにぎり屋、休日は娘と出勤します。「働く現場を見せるのも大切」との思いとは裏腹にテキパキ動く娘に助けられています。スタッフやお客様たち、周りを巻き込んで子育てをしているなと日々かみしめています。

no.32 大阪府 たかちゃんさん

防災アイデア賞 #推しのオモチャは備蓄パン



備蓄パンの入れ替えをした際、子供が積み木のように遊んでいてその日からお気に入りになりました。丈夫なので噛んでも投げて壊れず重宝しています。私も常に目に入るので備蓄への意識も忘れず助かっています。

no.17 大阪府 ぶりちゃんさん

子どもの遊びの風景が、自然に防災の風景になっていて新鮮。
(山納委員)

被災地に行かなくてもできる支援、まだまだありますね。
(京極委員)

防災アイデア賞 #炊き出しは重労働

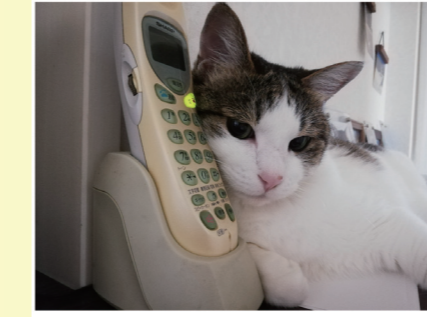


私にも何かできる事はないかな？と被災地支援に参加！初めて炊き出しをしてみると、星食作りだけで半日かかるし、かなり重労働でとても大変！女性ばかりが負担するのは難しいと感じました。

no.23 大阪府 あおぞら防災ママさん

ボランティア活動の実体験を話す大人の姿勢や熱意も伝わり、子どもたちの素直な気持ちが引き出されたのではないかと感じました。
(沢田委員)

いいね！ #猫の避難所もありますか？



いざ避難するとなったとき、人間優先は勿論ですが大切な家族の動物を置いていけなくて自宅避難をせざるを得ないことも。できればペット可の情報、そしてOKの避難所の確保ができますように。

no.8 大阪府 しましさん

ペットを連れての避難、多くの人の理解が進みますように。
(京極委員)

防災アイデア賞 #家族で災害ボランティア



泥水に浸かったり雨漏りなどで濡れた写真アルバムを救う「写真洗浄」活動は、子どもさんや高齢者にもできる災害ボランティアです。大切な思い出を守るこの活動は、多くの皆さんに支えられています。

no.42 大阪府 篠原佳代子さん

あえて「女性ばかり」を強調して、逆のメッセージを伝える趣旨に賛同いたします。
(木下委員)

いいね！ #ぼくいっかいやらんとくわ



夏祭りに能登でボランティアした時の写真を展示。「えっまだこんななん？ぼく1回(遊ぶの)やめとくわ！」小3男子が財布から小銭を募金箱に入れてくれました。「来年は僕らみたいにお祭りができたらええやろな〜」

no.19 大阪府 まきちゃんさん